

石油化学工業協会 JPCA（略称：石化協（せつかきょう））

「**石化協ニュースレター**」<第2号> 2011年6月16日

---

◆ 目次

1. はじめに

2. アジア石油化学工業会議(APIC)2011 福岡開催特集

3. 協会行事予定

4. 編集後記

---

1. はじめに

今回の3.11東日本大震災につきまして、被災後約3ヶ月が経過しました。亡くなられた方々へ心からの哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に対し心からお見舞いを申し上げます。

未曾有の大災害として当業界も茨城県、千葉県に立地されているコンビナートを始め東北地区における会員会社の生産拠点も相当の打撃を受けましたが、順次稼働を再開しております。自動車部品を始めとし産業資材や生活に密着した日用品、医療関係等の代替不能な基礎素材の供給責任もあり、大きな支障の出ない範囲で最大限の生産、出荷をさせて頂いているところでございます。

被災地及び被災された方々に対する具体的、個別的な支援については、石化協で取りまとめることはしておりませんが、会員各社可能な範囲で努力して頂いていると承知しております。さらに、コンビナートの安全の確保については、かねてから石化協としても最優先の課題として取り組んでおりますが、今回の震災を踏まえて、今後もこのような事態が有り得ることを念頭に、業界各社万全の対策を講じている所であります。

以上、今回の災害についてのコメントとさせていただき、重ねて被災された皆様へ心からお見舞いを申し上げますとともに、一刻も早い復旧と健康を回復されることをお祈り申し上げます。

## 2. アジア石油化学工業会議(APIC)2011 福岡開催特集

5月26日～27日の両日、福岡市のヒルトンシーホークホテルにおいて、アジア石油化学工業会議(以下「APIC」)が盛大に開催されました。



(会場及び周辺の風景)

APICは石油化学産業の最新の情報を交換する場として、また、アジア内外との交流の場としてアジアの石油化学産業の発展に貢献してきました。現在アジアの石油化学市場は世界最大の規模となり、APICの存在感や注目度も一層高まってきております。

APICは、1979年に日本の石化協の主導で日本、韓国、台湾の3地域の石油化学産業の代表者によってスタートし、2000年に現在の名称であるアジア石油化学工業会議(APIC)となりました。

現在、日本、韓国、台湾、インド、シンガポール、タイ、マレーシアの7協会が運営されており、アジアのみならず世界の石油化学産業の関係者が集う一大イベントとなっております。今回の福岡開催は、通算で32回目、2005年に横浜で開催して以来の日本開催となりました。

今回のAPICは、3月の東日本大震災と原発事故の風評被害で海外からの参加者の激減が予想され、開催が危ぶまれましたが、皆様のご支援と各国石油化学団体の後押しや協会会員各位の尽力によりまして、1,400名を超える参加者(横浜開催時は900名強)となり、大盛況の会議となりました。

以下、プログラムに沿って、当日の様子を御紹介致します。

### <5月26日>

終日、英米のコンサルタント会社によるケミカルマーケティングセミナーを開催。

### <5月27日>

・午 前； 総合会議開催

小林喜光 石化協海外委員長(石化協副会長)の司会により進行



(司会:小林副会長)

## (1)高橋恭平 石化協会長の挨拶

[高橋会長挨拶要旨] 東日本大震災で被災された方々に心からお見舞い申し上げ、早期復興をお祈りします。震災後のこのような困難な状況下でAPICを開催できたことを誇りに思います。APIC開催に御協力頂いたAPIC 6協会の皆様、本日御来場頂いた皆様に御礼申し上げます。

石油化学は、既存の素材を代替することで地球温暖化ガスの抑制に多大な貢献をし、私達の暮らしをより便利に、快適に、より衛生的にしていく上で重要な役割を果たしてきました。

アジアは既に石化において世界最大の市場であり、その存在はより大きくなりつつあります。APICのメンバーは域内の増大する需要に応えるだけでなくエネルギー節約、環境保護を通じて石化産業と人類の繁栄に貢献することが極めて重要であります。

Petrochemistryの無限の可能性について活発な議論を期待します。



(高橋会長)

・続いて、APIC 6協会の代表によるスピーチが行われ、その後、次の3名のゲストスピーカーによる講演を実施しました。

## (2) ゲストスピーカー3名の講演

### ①Dr. Jürgen Hambrecht (BASF 前会長)

演題 「“Chemical Industry—Quo Vadis”」

要旨: 化学工業は多方面に関わる横断的な産業である。その製品と体系的な問題解決能力は持続可能な未来を可能にする立役者である。人口と都市文化の波、資源の枯渇の脅威、環境保護と規制、これらの要因の増大は化学工業に直接大きな影響をもたらす。

増大する世界規模の(企業間の)競争への対応は株主、従業員、社会の三者に長期的な利益を創造することによって差別化を確実なものにする戦略を必須なものとする。

②小宮山 宏 様(三菱総合研究所理事長・東京大学総長顧問)

演題 「Green Growth and Green Innovation

—The Role of the Petrochemical Industry—

要旨:21世紀を迎え、我々は、地球資源の枯渇、高齢化、情報の爆発的增加等による新たなパラダイムに直面している。

日本は、これらの問題の解決策を模索しているが、私は、環境問題が解決され高齢者が生き生きと暮らせ、さらに工業の競争力を高め経済成長を促す、という意味を込めて「プラチナ社会」を提案する。この「プラチナ社会」を実現することを目的として、光発電、燃料電池、ヒートポンプ、エコカー等の最新技術の駆使と市民、地方自治体との協力をベースとして「プラチナネットワーク」を拡大する必要があると考える。これは、地球温暖化や新しい産業の創造に取り組む世界をリードすることが可能であり、全世界において、全く新しい都市計画のモデルを構築するために世界のコミュニティ間相互の協力を促進することが可能となる。

③志賀 俊之 様(日産自動車(株)COO)

演題 「Creation of a Sustainable Mobility Society

—Nissan's approach to the environment and what we expect from the Petrochemical Industry—

要旨:日産は現実の社会において、地球と次世代の人々のために持続可能な自動車社会を開発することによって環境負荷を削減していく。この目的のために日産は「企業活動、自動車、資源の使用に由来する環境負荷の水準を自然が吸収し得る範囲にとどめる」ことを自社の究極の目標として設定した。自動車産業で起こっている急激な変化の中で、日産自動車の環境問題への取り組みとこの問題での石化産業に対する要望を軽量化、材料再生等の事例を使用してお話しする。



(ゲストスピーカー：左から、Dr. Jürgen Hambrecht、小宮山宏様、志賀俊之様)

### (3)共同宣言採択

アジアの石油化学は、絶えざる技術革新によって環境問題に適切に対処し、かつ、持続的成長を担保することによって、人類の幸福と繁栄の実現に向けて団結して世界をリードしていくという趣旨の共同宣言を全会一致で採択しました。なお、今回の共同宣言の採択は、APIC始まって以来、初めての試みで大変盛り上がりました。

<以下、共同宣言全文>

APIC2011 Joint Communiqué  
27 May 2011 (Fukuoka)

APIC 2011 has been successfully held in Japan with many participants from Asia and other parts of the world despite an earthquake and tsunami of unprecedented proportions which struck the country on March 11.

To begin with, everyone gathered here would like to express their deepest sympathy to all those who have been affected by this disaster. We all hope that the victims of the disaster will be able

as soon as possible to find the path that leads away from their present tribulations in the direction of recovery.

The Asian petrochemical industry has achieved an outstanding level of growth in recent years to become among the world's most influential industrial sectors.

Our industry has contributed significantly to improving the quality of life of people in our region by providing more convenient, comfortable and hygienic products and solutions.

Today, however, society is faced with challenges that are neither few in number nor easy to solve, in particular:

- The explosive increase in population means that measures must be taken to make effective use of resources such as energy and food, and a response needs to be provided with regard to expectations for innovative alternative policies.
- Global warming and other environmental issues must be responded appropriately so as to keep the earth beautiful and good place to live on for next generations.

Petrochemistry has an important role to play in creating opportunities for human happiness and prosperity by solving such challenges through innovation and provision of support for sustainable growth. We at APIC intend to work closely together in unity to lead the world toward the realization of this goal.

APIC2011 共同宣言

2011年5月27日(福岡)

APIC2011は3月11日に発生した未曾有の震災にも拘わらず、アジア及び世界各国から多数の参加者のもと、日本において成功裏に開催された。

まず第一に、ここに集った一同は被災した人びとに心からお見舞い申し上げます。我々はこの震災に苦しむ人々がこの困難から遠くない将来に立ち直ることを確信している。アジアの石油化学産業は、近年目覚ましい発展を遂げ世界でも最も影響力のある地位を形成するに至った。

我々の産業が提供するプロダクトやソリューションは、地域に暮らす多くの人々の利便性、快適性、衛生面等、生活の質の向上に多大な貢献をなしてきた。

現在、人類が直面する課題は、少なくなく、また容易でもない。就中一

- ・ 爆発的に増大する経済人口にあって、食料やエネルギー等の資源を有効に活用しなければならないこと、乃至は非従来型の代替策の期待に応える必要があること。
- ・ 地球温暖化をはじめとして、環境問題に適切に対処して次の世代に美しく住みよい地球をのこす義務がある。

石油化学(Petrochemistry)は、イノベーションによってこれらの課題を解決し、持続的成長を担保することによって、人類の幸福と繁栄の機会を実現することに重要な役割を果たすことを目指す。我々APICは、団結してこのゴールに向かって世界をリードしていく。

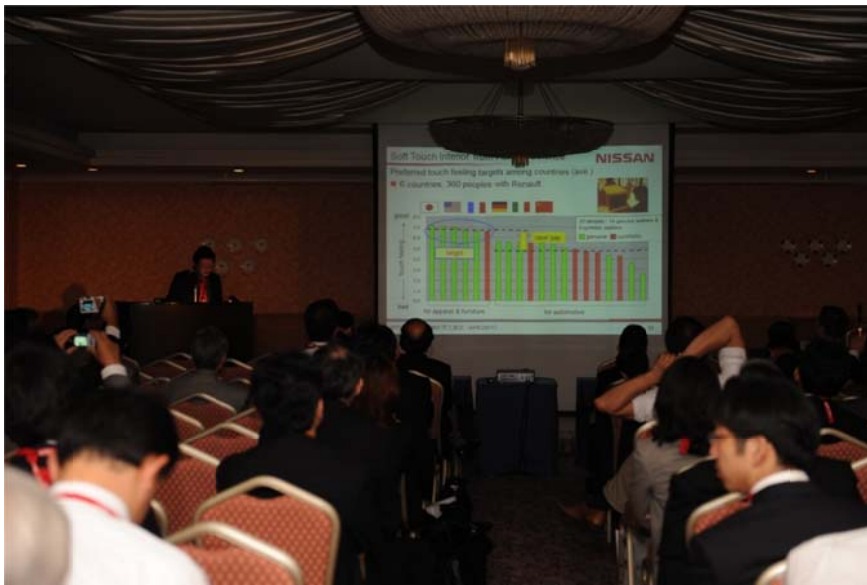
以上

## ・午後：分科会

従来から設けられている以下の7つの製品別分科会において、欧米・アジア各方面から招聘されたコンサルタントによる供給サイドの視点から見た講演が行われました。さらに、今回はこれらに加えて日本開催ならではの企画として「自動車分科会」を新設し、需要業界である自動車産業から素材の専門家をお招きして、素材としての石油化学製品の可能性について講演を頂きました。新たな試みとして行いましたが、多数の参加者をもって大好評でした。

- ①共通問題・原料分科会、②ポリオレフィン分科会、③スチレン分科会、④塩化ビニル樹脂分科会、⑤合成ゴム分科会、⑥合成繊維原料分科会
- ⑦化成品分科会 「⑧自動車分科会」





(分科会会場風景)

☆ なお、今回の会議において、次回来年の会議(APIC 2012)は、マレーシアで開催することが決定致しました。

<以上、APIC特集でした。>

### 3. 協会行事予定

今年の石化協総会は次の日程で予定されております。

◇石油化学工業協会定時総会

・開催日:7月7日(木) 16時～

・場 所:経団連会館

---

### 4. 編集後記

石化協ニュースレター発刊第2号を送付させていただきました。

関係者の皆様へ、石化業界を取り巻く話題について、広く情報発信させていただくという趣旨にて本年より始めさせていただきましたが、その直後3.11東日本大震災、加えて福島原子力事故の発生という災害に見舞われました。足元ですぐに判断が必要なこと、中長期に渡り取組まねばならない課題の整理等、様々なお立場で経験のない事態の対応に忙殺されたことと思われます。

石化協ニュースレターは、今後さらに内容を充実させ、順次皆様のお手元に石化業界のホットな話題をお送りさせて頂きたいと思っております。

忌憚のないご意見、ご要望、及び投稿などをお待ちしております。

メールアドレス; [inquiries\\_hp@jpca.or.jp](mailto:inquiries_hp@jpca.or.jp)

---

・「**石化協ニュースレター**」の配信中止・登録内容の変更等はこちらまで。

メールアドレス; [inquiries\\_hp@jpca.or.jp](mailto:inquiries_hp@jpca.or.jp)

石油化学工業協会 総務部 (お問い合わせ先:百瀬)

〒104-0033 東京都中央区新川 1-4-1 住友不動産六甲ビル

TEL. 03-3297-2019 Fax 03-3297-2017

## ○石油化学工業協会役員

### <役員>

会 長 高橋 恭平

(昭和電工(株)代表取締役会長)

副会長 小林 喜光

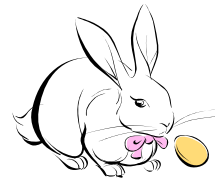
(三菱化学(株)代表取締役社長)

副会長 松下 功夫

(JX 日鉱日石エネルギー(株)代表取締役

副社長執行役員)

専務理事 高梨 圭介



### [事務局所在地]

〒104-0033 東京都中央区新川 1-4-1

住友不動産六甲ビル

TEL 03-3297-2011(総務部)、2013(企画部)、

2014(業務部)、2015(技術部)